

WORKING TIME

菅原さんの1日

- 6:00 起床
- 7:20 出社
- 7:30 朝礼後、現場へ移動して測量作業
(1日事務仕事の日もあり)
- 12:00 昼休み
- 13:00 会社で書類作成など事務仕事
- 16:50 森林技術員と打ち合わせ
- 17:30 退社
- 22:00 子どもを寝かしつけながら就寝

天気の良い日は現場仕事の日!

8:00



事務仕事と現場仕事を担当する菅原さん。この日は天気の良いので外仕事の日。間伐を行う現場の測量に向かいました。

現場では最新の測距器が大活躍

10:00



現場の測量には平成22年からデジタル最新機器を使っている。「短時間に効率よく、かつ正確に測量できるのでとても便利です」。

PRIVATE TIME

菅原さんのちょっとプライベートコーナー



3歳の息子と遊ぶことが楽しみです。

休日は毎回、お出掛けです。

間伐する山を測量中。一人が反射板を持って上部に上がり、下から菅原さんが測距器を反射板に当てて計測。結果はデータで記録できる。「それまでのコンパス測量だと足場の悪い中で時間もかかり、滑って転んだり、沢に落ちたことも」



請や森林経営計画の立案、現場の工程管理も行っています。平成28年に森林施業プランナーも取得して、プランナーの仕事も増えました(笑)。
——今では失敗することもなくなりましたか。
全くそんなことはないです。山主さんからは「こうしてくれ」といったのに!」と言われ、現場で森林技術員さんに納期が遅れそうなことを注意すると「お前が木を伐つてみる!」と言われ(笑)。山を大事にしてきた山主さんは思い入れも大きいので、丁寧に話を聞くようにしています。山という人の財産を扱う仕事なので100%満足してもら

うのは難しいにしても、山主さんの思いを大切にすることが森林組合の仕事なのかなと思っています。
——この仕事をしていてよかったと思うことは。
自分たちが手を掛けてきた間伐現場が終わって、山がきれいになったときは達成感がありますね。あと、地元のお年寄りや仲良くなるのも面白いです。地元には少しは貢献できているかなと思います。毎日、大変ですが、楽しいこともあるから続けていると思います。まだまだ勉強しなければいけないことが多く、寝る前に「明日、あれやらなきゃ!」と思いながら寝て、朝「やらなきゃ!」

と飛び起きる日も多いです。
——今後の目標は。
間伐なら補助金を受けながら山主さんにある程度、利益をお返しすることができそうです。山を持っていても荷物だと思っている人に手を掛けて大切にしていけば財産になることを伝えていきたい。組合では今まで奥地や木の生育の悪い地域は間伐を行ってこなかったのですが、ことし初めて間伐をやってみたらなかなか良い成果が出ました。山北地域の山は急峻ですが手入れできることが分かりました。自分たちの森林組合の個性を考えて、山北地域の新しい林業を作っていきたいです。



林業マンINTERVIEW

村上市森林組合

SUGAHARA FUMIHIRO

菅原史裕



1984年、村上市中継生まれ
村上市在住(33歳)
林業経験8年目

山主さんの思いを大切に
することが森林組合の仕事

——森林組合に入社したきっかけは。
それまでの仕事は異動があったので地元で働ける仕事を探していたところ、森林組合を紹介してもらいました。
——森林組合の仕事についてどのようか考えていましたか。
木を伐つて山を整備したり、木材の

生産や加工をする仕事だと思っていました。私は事務兼現場の担当で補助金申請の仕事をする事になったのですが、こんなに複雑な仕事があるとは思っていませんでした。とにかくやるのがたくさんあって驚きました。

——苦労したことは。
入社した頃は、補助金申請の仕事が一番大変でした。複雑な補助金の仕組みを理解することから大変で。毎日のように叱られていましたよ(笑)。そんな苦労も今では良い経験になったと思っています。

——今はどんな仕事をしていますか。
山の調査・測量、交付金・補助金申